

上越交響楽団 第85回 定期演奏会

SUPPÉ
ROSSINI
BRAHMS
Symphony No. 1

◆スッペ
喜歌劇「スペードの女王」序曲
◆ロッシーニ
歌劇「セミラーミデ」序曲

◆ブラームス
交響曲第1番 ハ短調



※未就学児をお連れのお客様は、他のお客様のご迷惑にならないよう、ご配慮をお願いします。

主催/上越交響楽団 後援/上越市教育委員会、妙高市教育委員会
【新潟県文化芸術活動支援事業】



ご来場の皆様にご協力をお願い致します。

2022.9/18 (日)
13:00 開場 14:00 開演
上越文化会館 大ホール

出演者

コンサートマスター
三溝 健一

1st ヴァイオリン

安藤 優
上野 圭子
加藤 由香里
小菅 宏造
橋本 士郎
横田 幸恵
伊野 晴香*
岩田 貴守*
折原 裕子*
田中 陽子*

2nd ヴァイオリン

青木 由美子
五十嵐 健彦
齊藤 典子
須田 政志
高松 理恵
山田 美幸

石津 忠*
坂口 和代*
細川 陽子*
Ricky Wong*

ヴィオラ

稲田 由佳
澤村 昂志
清水 哉子
古海 法雲
渡辺 みほ
村井 宏明*
横田 裕祐*

チェロ

池田 なつき
上野 敦子
佐藤 充
柁木 文子
水澤 由紀
瀬高 伸一郎*
中務 浩*

コントラバス
秋山 雅央
広瀬 吉成
吉崎 須賀子
渡辺 光
木口 聡*

フルート

小林 愛佳
齊藤 孝久

オーボエ

兼古 祐輔
羽賀 純子
橋本 直子
皆川 正弘
皆川 未央

クラリネット

齊藤 直美
鈴木 和久
富田 洋加

ファゴット
荒川 裕紀
塩浦 絢子
宮口 弘明

トランペット

神戸 正雄
小林 美月
水澤 学

ホルン

飯田 美由紀
笹川 修一
須田 孝義
森 真人
綿貫 英紀

トロンボーン

笠野 光雄
西山 瑤
松田 彰英

テューバ
吉越 篤*

パーカッション

稲田 善智
阿部 真代*
小島 章子*
上原 祐二*
藤沢 紀章*
綿貫 佳子*

団長

古海 法雲

事務局長

茨木 真

*賛助出演・団友

楽団について

1972年（昭和47年）に結成されました。当時の日本の高度経済成長に呼応するように、アマチュア音楽家の活動が全国的に活性化される流れのなか、上越においても市民オーケストラ結成の機運が高まり、地域の高校管弦楽団OBら有志が集って演奏会を開催。以来、年2回開催している定期演奏会や各方面からの依頼演奏会を通して皆様に親しまれてまいりました。現在は指揮者に長谷川正規氏、コンサートマスターに三溝健一氏を迎えて充実した活動を展開しています。

当団では一緒に活動していただける団員を募集しております。募集パート等の詳細についてはHPをご覧ください。素敵で愉快的仲間達と素晴らしい音楽を創りましょう。団員一同、心より歓迎いたします。

Web <https://www.joetsuso.info/>
TEL 090-1606-1254 (事務局 茨木)



演奏会のご案内

◆ 高田城址公園オーレンプラザ 「クリスマスフェスティバル」(予定)

日 時/ 2022年12月11日 (日) 14:00開演
会 場/ 高田城址公園オーレンプラザ ホール
出 演/ 上越交響楽団、上越市民吹奏楽団

◆ 第86回 定期演奏会

日 時/ 2023年3月19日 (日) 14:00開演
会 場/ 上越文化会館大ホール
入場料/ 1,000円 (高校生以下無料)
プログラム/
モーツァルト: 歌劇「魔笛」序曲
ドリーブ : バレエ組曲「シルヴィア」
シベリウス : 交響曲第2番 ニ長調 作品43
主 催/ 上越交響楽団

ごあいさつ

本日は上越交響楽団第85回定期演奏会にお越しくさいます。まことにありがとうございます。

当団は1972年（昭和47年）3月に誕生し、その年の8月に第1回の定期演奏会を開催していますので、今年で創立50年の節目の年を迎えたこととなります。通常であれば、「50周年」をキーワードとして、例えば大規模なオーケストラ曲に挑戦する、あるいは有名な指揮者や演奏家を招待する、または上越市外に演奏旅行に出かける、というようなことに取り組んでいたかもしれません。創立50周年を上越交響楽団としてどのように迎えるかということを考え始めた時期と、世界で、日本で、「新型コロナウイルス感染症」が認知され、なおかつ流行し始める時期とが重なったことで、私たちは一旦、立ち止まりました。

上越交響楽団 団長 古海 法雲

「音楽って何?」「この状況下で演奏会を開催する意味は?」……。様々な疑問に対する答えを見つけては、新型コロナウイルス感染症の感染拡大に影響されながら、本日ここに、私たち上越交響楽団なりにまとめ上げた最終回答を皆さんにお届けします。もちろん、指揮者や当団団員一人一人にそれぞれの思いがあって、その思いを重なり合わせて、プログラムの曲を仕上げた訳ですが、さて、皆さんにはどのように届き、響き渡りますでしょうか。「ソーシャルディスタンス=社会的距離」が求められる今だからこそ、すぐ側まで寄り添えることができる音楽が、皆さんの活力の源になるのであれば、これ以上の喜びはありません。それでは、どうぞ最後までごゆっくりお聴きください。いつでもどこでも、皆さんの側には素敵な音楽がありますように!

指揮者



長谷川 正規

Masanori Hasegawa

東京藝術大学音楽学部器楽科（チューバ専攻）を卒業。同大学大学院音楽研究科修士課程修了。学部在学中に安宅賞を受賞。ソリストとして、松尾葉子指揮藝大フィルハーモニア、故岩城宏之指揮オーケストラアンサンブル・金沢等と共演。チューバ奏者として管弦楽・吹奏楽・室内楽の領域で活動するほか、指揮の活動も盛んに行っており、上越交響楽団、上越市民吹奏楽団、新潟市北区フィルハーモニー管弦楽団の定期公演をはじめ、ミュージカル「春のホテル」、オペラ「ヘンゼルとグレーテル」「愛の妙薬」「売られた花嫁」等で指揮者を務める。これまでにチューバを稲川榮一氏に師事。現在、上越教育大学大学院学校教育研究科准教授。

コンサートマスター



三溝 健一

Ken-ichi Samizo

松本市出身。4歳よりヴァイオリンを始め、片岡世界・正岡紘子・山岡耕作・天満敦子の各氏に師事、東京音楽大学にて井上將興氏にヴァイオリン及び室内楽を師事。また、肥沼きよ・丸山嘉夫・竹内邦光・松本紀久雄・汐澤安彦の各氏にピアノ・ソルフェージュ・音楽学・指揮法を師事。大学在学中より多分野にて演奏活動を開始。編曲も多数手掛けている。また、これまで各地の学生・市民オーケストラにて演奏指導と活動の発展に尽力、後進の育成にもあたる。近年、汐澤安彦指揮「日独友好演奏会（ベルリンフィルハーモニー ホール）」「Sio フィルハーモニック オーケストラ・ドリームコンサート（東京芸術劇場）」にてコンサートマスターを務める。足立シティオーケストラ・上越交響楽団・柏崎フィルハーモニー管弦楽団／コンサートマスター（常任・客演）・トレーナー・副指揮者（足立）。音泉室内合奏団／音楽監督（ソロ コンサートマスター）。池袋音楽学院・Gruppo Violini／講師。Musica Rospo／主幹。

プログラム & 楽曲解説

スッペ／喜歌劇「スペードの女王」序曲

1864年に発表された喜歌劇の序曲です。当時ウィーンで大人気を博していたオッフェンバッハに対抗しようと、1幕劇として創作されました。劇は文豪プーシキンの戯曲を原作にしていますが、現在では上演されないようです。しかし序曲は「軽騎兵」や「詩人と農夫」等

の名曲と同様に優れたものであることから、しばしば演奏会で取り上げられます。ゆるやかな歩調の旋律で始まり、一転して速いテンポのハンガリー民謡が現れて中間部ではフルートが可憐な旋律を奏でます。その後、また快速な民謡が現れ、終結に向けて駆け抜けます。

ロッシーニ／歌劇「セミラーミデ」序曲

歌劇はボルテールの戯曲を基にしたもので、1822年ロッシーニが30歳の時に作曲した2幕劇です。古代バビロニアの女王セミラーミデは、悪漢アスールにそそのかされて夫のニーノ王の毒殺に手を貸します。その時に行方不明になった幼い息子が自身の素性を知らずに育ち、勇敢な戦士アルサーチェとして武功をあげていたところ、セミラーミデは自分の息子とは知らずに恋心を抱いてしまいます。セミラーミデが自らの夫としての新王にアルサーチェを選ぼうとす

ると、王の墓からニーノ王の亡霊が現れ、罪ある者の成敗を唱えたことから、彼女とアスールは恐怖におののきます。身の上を知らされたアルサーチェは、母セミラーミデが犯した罪を知り、残酷な決断を迫られます。躍動するようリズムの刻み出しに始まり、歌劇の主題が次々と現れます。終盤に向けて主題を繰り返しながら音量を増すという、ロッシーニが得意とした「ロッシーニ・クレッシェンド」と呼ばれている技法により、興奮の渦に巻き込まれます。

〈 休 憩 〉

ブラームス／交響曲第1番 ハ短調 作品68

ブラームスは若いころから交響曲の作曲を試みていましたが、常に頭の中にあつた偉大なベートーヴェンの交響曲の存在が壁になり、それを超える創作に至ることができませんでした。しかし「ハイドンの主題による変奏曲」の作曲が好評を得たことをきっかけに、約20年間も構想を練ってきた交響曲を完成させて1876年に発表しました。ブラームスは既に43歳になり、作曲家としては円熟期に入る時期でした。この年は音楽史上重要であり、ワーグナーがバイロイトで大作「ニーベルングの指輪」を上演し、囂らずも、音楽的に対立するふたりの巨匠の重要な作品が相次いで発表されています。

やはり、この交響曲はベートーヴェンの影響を強く受けており、調性がハ短調であること、1楽章と3楽章に「運命動機」が現れる

ことや、4楽章の息の長い旋律は第9の「歓喜の主題」と共通性があります。一方で、1楽章の重厚な序奏部、2楽章の気高い雰囲気、3楽章の素朴で明るい感情や4楽章のコラール楽想など、至るところにブラームス独自の音楽が響いています。特に、4楽章のコラールはブラームスがスイスの山に保養に訪れた際に耳にしたアルペンホルンによる民謡を基にしており、交響曲の性格を位置付ける重要な旋律になっています。

第1楽章：Un poco sostenuto-Allegro

第2楽章：Andante sostenuto

第3楽章：Un poco allegretto e grazioso

第4楽章：Adagio-Allegro non troppo, ma con brio